

第15回 京都府北部福祉人材確保・定着戦略会議

- 日 時 令和3年9月10日（金）13：30～15：30
- 手 法 オンライン会議（拠点：京都府北部福祉人材確保推進事業事務局）
- 内 容

<開会のあいさつ> 京都府健康福祉部地域福祉推進課長

- ・京都府では、第9次京都府高齢者健康福祉計画にて2021年度から2023年度の3年間で新たに7500人、そのうち北部1050人の福祉人材を確保する計画を立て、事業を推進しているところ。昨年度（2020年度）は、府全体で2115人、そのうち北部344人を実現した。
- ・京都府北部地域は、府内でも特に高齢化率が高く、今後も上昇していくことが見込まれることから、介護が必要な高齢者を支える介護・福祉人材を府北部地域全体でしっかりと養成する仕組みを構築しようと、8年前から取り組み、行政、福祉・医療関係団体職能団体等の関係機関が一体となって推進していくことを目的に、この戦略会議を開催してきているところ。
- ・舞鶴市の養成校、福知山市の現任者研修施設、宮津市の総合実習センターをしっかりと活用し、関係機関が連携しながら、実効性のある取り組みを、今後とも、地道にかつ着実に実施していきたい。
- ・新型コロナウィル感染症の影響を受け、この間、府北部地域の福祉人材養成・確保の事業においても、様々な見直しや工夫を行い、新しい生活様式に合った事業に整えていっているところ。今後も皆様と協力し進めていきたい。
- ・本日は、府北部地域の市町、就職支援機関、福祉・医療関係団体など関係の皆様方で、それぞれの取組状況を共有し、今後の府北部地域における福祉人材確保と地域福祉を考える有意義な場としたい。

<議題>

- 1 令和3年度 京都府介護・福祉人材確保総合事業（北部地域関連）について
- 2 京都府北部人材養成システム推進事業の推進について
（関係団体・京都府北部福祉人材確保事業事務局等からの報告）
- 3 今後の取組について 意見交換

<共有・意見交換 等>

1 令和3年度 京都府介護・福祉人材確保総合事業（北部地域関連）について〔京都府から説明〕

- I 京都介護・福祉人材総合支援センター（FUKUJOB きょうと）の運営
- II 福祉人材育成認証制度等の活用促進
- III 京都府北部福祉人材養成システム推進事業
北部福祉人材カフェ運営事業、北部福祉人材確保・定着事業
- IV 介護・福祉を支える多様な人材の確保
介護に係る入門的研修事業、外国人介護人材確保事業
- V 介護福祉職場の業務効率化事業
介護福祉現場の業務効率化に資する介護ロボット・ICTの導入経費助成
- VI 福祉人材カフェ・福祉人材養成事業
京都ジョブパークでの就業相談、即戦力となる福祉人材の養成

2 京都府北部人材養成システム推進事業の推進について〔関係団体から共有〕

（1）令和3年度京都府北部福祉人材確保事業（7月末時点）について〔京都府から共有〕

■北京都ジョブパーク福祉人材カフェ運営事業

新規登録者数： 204名（年間目標： 420名）
内定者数： 146名（年間目標： 360名）
のべ相談件数： 732件（年間目標： 1,300件）

- 新規登録者数・のべ相談数・内定数いずれも、前年同期と比較し増加。年間目標達成率からみても好調。
- 特に、新規登録者数については、福祉の入門セミナーを世代別やテーマ別に積極的に行うことで大幅に増加。
- 対面(来所)相談は前年同期と比較し大幅に増加。前々年同期(R1.7月)と同等まで回復。
- 内定数については、効果的なマッチング支援を行うため、就職活動中のリストを整理した上で、電話やメール等により状況の確認を行い、就職に向けたカウンセリングを集中して行うことで目標値を達成できている。

■北部福祉人材カフェ・各事業

○ハローワークとの連携

- ・「福祉職場見学会」の実施を見合わせる代わりに、昨年度に引き続きオンラインによる個別企業説明会を実施。
- ・府北部地域のハローワークと連携し、「福祉のおしごと説明会」の“ミニ就職フェア”を5回、“個別企業説明会”を28回、“出張相談会”を20回を実施、合計79名の方に参加いただいた。

○求職者向けセミナー

京都府北部(中丹・丹後)地域において、地域住民を福祉人材として安定的に確保するための事業の一環として、介護・福祉職場への就職に結びつけるための「入門・実践セミナー」を実施した。

- ・介護・福祉職場への就職に結びつけるための「福祉の入門セミナー」（世代別に様々なテーマで開催）
- ・福祉職場に興味をもていただくための「福祉の実践セミナー」（認知症・きこえのサポーター養成講座を活用）

■離職者訓練（福祉即戦力人材養成科）

- ・丹後地域：訓練期間 7/20 から 12/17、17名が受講中。
- ・中丹地域：訓練期間 8/31 から 1/28、12名の受講が決定(7月末時点、募集期間 8/10まで)
- ・通常時の定員数は各25名だが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場の収容人数との関係で21名を定員に募集した。

■理解促進事業

○次世代担い手育成事業（小学校・中学校 対象）

- ・出前講座を中心に各学校と調整を進め、1校8名が参加。その他、1校の実施に向け調整中。

○次世代担い手育成事業（高校生 対象）

- ・ご家族の来所を制限している事業所も多く、福祉職場見学会の実施は難しい状況。
- ・出前講座を中心に各学校と調整を進め、1校12名が参加。

■大学実習等誘致事業（北部福祉フィールドワーク事業）

- ・従来の「資格実習型」と「まちぐるみの体感学習型」に加え、昨年度から実施の大学(教員・学生等)と府北部の福祉施設とが、福祉施設職員がオンラインや出前講座等で提供する“福祉の学び”でつながる「ラーニングサポーター型」を効果的に組み合わせ展開。
- ・8月末時点で5大学の参画について調整済みであり、ラーニングサポーター型の「導入セミナー」に112名・「まちぐるみの体感学習型」に1名が参加した。また、「まちぐるみの体感学習型」に36名、「資格実習型」に13名が参加予定。導入セミナーの参加者に対しては、「まちぐるみの体感学習型」フィールドワークへの参加を促していく予定。

《きょうと介護・福祉ジョブネット 北部フィールドワーク型実習推進チーム》

○ 以下のとおり会議を開催し、チームメンバーを核に事業を企画。

- ・第1回会議（6月10日）：フィールドワークの進め方を検討、各福祉事業所のPRポイントの共有。
- ・第2回会議（3月を予定）：各福祉事業所における受入状況の共有等を予定。
- ・北部地域の魅力や地域資源を活かした福祉の学びのプログラムを構築することにより、大学（教員・学生等）と福祉事業所が、福祉の学びの活動を通してつながる環境を整えていくこととなった。
- ・また、新型コロナウイルス感染症等の影響もあり、地域外から新たな人材を呼び込むことがより困難な状況を踏まえ、これまで事業を推進する中で少しずつ整えてきた、こうした受け入れ環境を、地域の潜在的な働き手（高齢者や主婦層など）を介護・福祉事業所における介護職員等をサポートする職種として活躍いただくための“福祉職場体験受入”にも活用し、介護・福祉を支える多様な人材の確保を進めていきたいとの意見があり、試行的に実践していくこととなった。また、こうした取組を進めるにあたっては、“地元住民で地元の福祉施設を支えていくという意識づけ”とともに進めていきたいとの意見があった。

○ 高校教員対象進路指導セミナー

- ・高校生の進路指導や職業選択に大きな影響力をもつ高校教員向けに、「教員のための“介護・福祉”進路指導セミナー」を実施予定

〔主催〕きょうと介護・福祉ジョブネット「北部フィールドワーク型実習推進チーム」「仕事理解促進チーム」【合同企画】

〔対象者〕進路指導担当教員（就職・進学指導）、福祉系コースの教員、家庭科の教員、その他業務で就職・進学相談に携わる教員

日時：令和3年9月28日（火）15：30～16：30

手法：オンライン（オンラインビデオ会議システム Zoom を活用）

内容：オンラインセミナーと福祉職場オンライン見学会

〔セミナー〕「SDGs×福祉、ICT×福祉」新しいフシの見方～福祉事業の将来像 大学での福祉の学び方～
〔福祉職場オンライン見学会〕(福)大樹会「やすらぎ苑」ICTを活用したこれからの新しいカタチ

(2) 北部福祉人材養成システムの進捗（7月末時点）について〔関係団体から共有〕

《福知山民間社会福祉施設連絡協議会》

○資格取得研修

- ・介護福祉士実務者研修：6月～12月、15日間で開講。昨年度は24名の参加があり、コロナの関係で通信教育のみ実施。今年度は昨年度の24名を含めて、56名でスタート。
- ・介護職員初任者研修：4月～7月、12日間で開講。23名が受講済み。

○現任者研修

契約職員研修、介護技術研修、中堅職員向 OJT 推進力向上研修等、各階層の職員向け研修を実施

○京都府北部協働推進事業研修

関係市町及び事業所と連携して実施

- ・組織人としての基本研修（WEB 開催）：6月に実施、舞鶴市協力、24名が受講。
- ・職場リーダー養成研修（WEB 開催）：7月に実施、舞鶴市協力、37名が受講。
- ・イキイキ職場づくり研修（WEB 開催）：8月に実施、舞鶴市協力、29名が受講。

- その他：喀痰吸引等研修は中止、普通救命講習は中止、防災研修は実施予定、介護福祉士国家試験対策講座は5日間で実施予定。

《舞鶴 YMCA 国際福祉専門学校》

・入学者数の変遷

2015年度14名→2016年度23名→2017年度23名→2018年度22名→2019年度23名→2020年度15名

・今年度（2021年度）入学者14名

- ・卒業生は、2019年度生を加えて90名を超える人材が介護・福祉施設に就職。それぞれの施設で活躍している。
- ・テクノロジーの活用体験を後期の授業から取り入れ、そういう体験を積んだ人材を現場に送り出すことを、学校のひとつの特徴としていきたいと考えている。

《宮津総合実習センター》

- ・開設以来、利用実績は着実に伸びている。昨年度は実習生を増やしたい思いで計画をたてていたが、コロナで大幅にやり方を変更せざるを得なくなり、オンラインでの取組みに変更した。大学の休校等で満足に学びを得られない学生が多い中、令和2年度全体の利用実績は575名と、そのほとんどがオンライン取組によるものであった。
- ・資格実習はコロナ禍において非常に難しい状況にあり、法人で定めた実習ガイドラインに基づき、感染予防対策を徹底した上で受入れを行っている。インターンシップ等はオンラインで受入れている。その他、WEBを活用して福祉現場のリアルを伝える1対1の面談（WEB トーク）やリモート見学ツアー、これからの福祉を学生同士で考えるオンラインワークショップ、オンラインセミナー（THE 福祉セミナー）等を企画し、実施した。
- ・学生らを北部の地域に呼び込んで、福祉だけでなく府北部地域の魅力にも触れていただきたいので、今後オンラインでも地域の魅力を体験いただく手法を、地域のまちづくり団体等と連携しながら検討している。オンラインで実施することにより、全国各地から参加いただけるという新たなメリットもあり、実際にたくさんの学生に参加していただいていることから、引き続き、オンライン企画は充実させていながら、対面での企画とセットで運用していけたらと考えている。

(3) 令和3年度 北部各市町の取組状況（7月末時点）について〔各市町から共有〕

《福知山市》「介護人材確保対策事業」「外国人等介護職員雇用推進事業」18,274千円（継続・一部新規）

- ・介護人材確保各種助成金：介護職員 UI ターン家賃助成事業、介護福祉士修学資金貸付事業、介護福祉士実務者研修受講料補助金、介護職員初任者研修受講料補助金
- ・介護職員実務者研修実施負担金：研修実施に係る会場賃借料 等
- ・外国人等介護職員雇用推進事業：福知山市の施設においても外国人技能実習生が増えていることから、昨年度から外国人介護職員を雇用した法人に、雇用奨励金を交付する事業を立ち上げた（昨年度は8事業所（12名分）に交付）。
- ・その他：昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から、例年の介護の日のイベントは行わず、代替事業として市民への周知を図る企画を検討中。

《舞鶴市》「介護人材確保支援事業」41,725千円（継続）、「外国人介護人材確保支援事業」600千円（新規）
「ウズベキスタン特定技能（介護）支援事業」300千円（新規）

- ・舞鶴 YMCA 国際福祉専門学校と連携して介護人材の確保に向けて支援事業を実施。

- ・各種資格取得支援事業：介護福祉士奨学金制度、介護福祉士資格取得支援講座受講料助成、介護職員初任者研修受講料助成
- ・養成校で学ぶ外国人の生活費等支援や、ウズベキスタンから特定技能(介護)で来日する外国人への支援は、新型コロナウイルス感染症の影響で海外からの渡航が困難な状況にあり、令和3年度7月末現在実績なし。
- ・高校訪問については、他市町の奨学金制度も一緒にPRできればと考えている。介護人材をしっかりと確保していくには中高生、市民の方に福祉の現状、魅力である仕事であることをもっとPRしていかなければならないと考えている。

《宮津市》「介護人材確保推進事業」2,350千円（継続）

- ・介護資格取得研修等受講費補助金、介護福祉士修学資金、雇用機会拡大補助金、福祉就職フェア関連経費
- ・その他：市営住宅を活用した住宅確保協力等の事業を検討中。新型コロナウイルス感染症の影響で学校への福祉体験等のPRは難しい状況。

《綾部市》「UI ターン福祉人材確保事業」800千円(継続)、「介護福祉士養成支援事業」2,000千円(継続)
「介護職員研修受講支援事業」555千円(継続)

- ・UI ターン福祉人材確保事業：市内の介護事業所等に就業するUI ターン者及び新規学卒者に対する家賃補助。令和2年度から対象を介護事業所等に加え、障害福祉サービス事業所等、障害児福祉サービス事業所、保育所等に拡充。
- ・介護職員研修受講支援事業：市内施設の介護職員の介護職員初任者研修又は介護福祉士実務者研修の受講料を補助。令和2年度新規事業であり、令和2年度実績は4名。

《京丹後市》「京丹後市介護福祉士養成奨学金」1,800千円(継続)、「京丹後市介護人材確保育成支援事業補助金」2,200千円(新規)

- ・京丹後市介護人材確保育成支援事業補助金：市内の介護事業所等における介護職員の確保及び資質の向上を図るため、介護職員の資格取得に要する研修の受講料等を負担した社会福祉法人等に対し、その費用の一部を補助するもの。
- ・施設職員等の高齢化・退職が近い、無資格の職員で担っている事業所・主任ケアマネージャーのいない事業所もある等の現状を踏まえ、新しく創設。5年の時限措置としており、法人もその間で職員の資格の取得促進に取り組んでいただきたいと考えている。福祉サービス事業者協議会と連携し、制度の周知・利用の促進に努めていきたい。

《伊根町》

- ・町内の介護サービス事業者等の社会福祉士、介護福祉士の資格を取得するために必要な研修の受講費を補助する「介護福祉士資格取得研修費補助事業」を実施していたが、活用がない状態が続いていたため、平成30年度末で廃止している。
- ・町内の介護事業所の状況を踏まえ、今後、どういった事業を創設するべきかについて検討しているところ。

《与謝野町》

- ・介護福祉士修学資金貸与事業 1,200千円（継続）

（４）その他 福祉人材確保の取組について〔関係団体から共有〕

《京都府福祉人材・研修センター》

- 当センターは、“福祉人材の確保・定着・育成”を目的に事業を実施している。
- 構成は次のとおり、3つのセンター機能がある。
 - ・府福祉人材・研修センター（介護・障害関係の人材確保）
 - ・府保育人材マッチング支援センター（保育関係の人材確保）
 - ・府外国人介護人材支援センター（外国人介護人材の確保と支援）
- 特に福祉人材の確保としては、「福祉人材のマッチング」「就職フェア」「貸付事業」大きくは3つの事業をしている。
 - ・福祉人材のマッチング：「無料職業紹介所」という位置づけで、FUKUJOB フェアとして面接会やセミナー等を実施。さらには求人情報の情報提供ということで、求人情報誌の発行・ポータルサイトの運営を行っており、学生の福祉職場アルバイト応援サイトや就活応援サイトを運営している。
 - その他、施設見学・就業体験、1 Day チャレンジを開催したり、「介護に関する入門的研修」も実施している。
 - ・就職フェア：府内全域を対象にしたものを2回と、府南部地域を対象とした地域開催を1回実施している。
 - その他、各市町村との連携型事業としての「就職説明会(市町村との共同事業)」も実施している。
- 今回は、府北部地域における“福祉人材の確保”事業の取組状況について共有する。
 - ・FUKUSHI 就職フェア（介護・福祉の仕事 合同就職説明会）
6月27日(日)に「みやこめっせ」で開催 / 会場参加、オンライン参加の“2つの参加方法”で展開

- ・保育園・認定こども園 合同就職説明会
(主催：(福)京都府社会福祉協議会 京都府保育人材マッチング支援センター、福知山市・舞鶴市・綾部市)
7月25日(日)に舞鶴市西駅交流センターを会場に福知山市・舞鶴市・綾部市から出展
- ・「介護に関する入門的研修」を今年度は、11月に宮津市と連携して開催。
介護業務は未経験だが介護に関心のある方が、この業界に参入する際に抱く、様々な不安を払拭するために、基本的な知識を身につけようということで実施をしている。この事業の効果として、すぐさま人材のマッチングにつながるかと、決してそういったものではないと思うが、介護人材のすそ野を広げるという目的で実施している。

3 今後の取組について 意見交換

〈舞鶴市〉

- ・この戦略会議とは別に、実務者会議というような形で、例えば府北部地域7市町の行政職員が集まって意見交換をするような場をもてたらと考えている。
- ・府北部地域7市町の連携をさらに密にし、情報共有や協力をしていきたい。例えば、各市町の奨学金制度を活用した舞鶴YMCA国際福祉専門学校の新入生獲得について、北部関係市町とも連携して進めていけたらと考えている。具体的には、各市町の担当者と舞鶴YMCAによる合同での高校訪問の実施を協力して進められたらと考えている。

〈北部福祉人材確保事業コーディネーター〉

- ・社会福祉法人は人材不足が根底にあり、経営危機の状況。北部福祉フィールドワーク事業でも、コロナ禍で大学側も学生を送り出すことが厳しく、法人側も受入れが困難となり、その強みが発揮できなくなっている。こうした状況を踏まえ、地元の潜在的な働き手の力をかりて、地元住民の力で地元の福祉施設を支えられないかと考えている。
- ・新しい人材を受け入れる側の福祉施設も、業務の明確化等を含めた受入れ体制を整えた上で、「介護・福祉事業所における介護職員等をサポートする職種」として、地元の多様な人材に活躍いただくための取組を府北部地域で皆さま方と協力しながらつづけていけたらと、きょうと介護・福祉ジョブネット「北部フィールドワーク型実習推進チーム」のメンバーで検討している。
- ・今ある地域の社会福祉法人や福祉施設が、仮に10年先になくなってしまったら、地域はどうなってしまうのかという危機感のもと、もっとも地元の方に関わっていただく仕組を発信していきたいと考えている。特に地元の元気な高齢者の方々が「介護・福祉事業所における介護職員等をサポートする職種」として、一緒に働いていただける環境を整えることをご提案させていただく。

〈一般社団法人京都府介護老人保健施設協会〉

- ・府老健協会としても、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設見学やボランティア等の受入れは自粛する代わりに、きょうと介護・福祉ジョブネット「仕事理解促進チーム」の事業として、佛教大学の高齢者ケア論の講義にゲストスピーカーとして、10年目の理学療法士と3年目の介護職員の2名が参加した。オンライン上での説明だったが、職員の熱意が伝わり、60名ほどの学生から「大変有意義であった」との感想をいただいたところ。
- ・北部福祉フィールドワーク事業もオンラインを活用した新しい取組を進めていくしかないと考えている。府老健協会としても、“定年制延長”や“介護助手・高齢者等の雇用”について、アンケートを実施し、とりまとめているところ。“学生等の若者”の採用と、“65歳を超える経験のある方”の採用という、まずはこの2本柱で取組を進めていくと思う。

〈一般社団法人京都府介護福祉士会〉

- ・多くの方に福祉職場に入ってきてもらうには、様々な形で魅力発信をしていく必要があると考え、京都府介護福祉士会ではYouTubeに「KAIGO PRIDE 介護職の魅力発信!!」と題した動画を掲載している。4名の介護福祉士が介護の仕事のやりがいや魅力について語る約8分の動画となっている。
- ・介護の仕事の誇りや、将来的に自分たちの活躍の場を広げていく仕事であること等発信しているので、いろいろな場面で活用いただき、多くの人に介護の仕事に興味を持っていただけて福祉人材確保の一助となれば幸い。

〈一般社団法人京都社会福祉士会〉

- ・府北部地域の「北部支部」では、“顔の見える関係づくり”を標語に活動してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が停滞しているのが現状。
- ・オンライン等のツールを活用しながら、支部活動のあり方を見直す議論を重ねているが、まだ形にはなっていないのが現状。府北部地域の福祉人材のスキルアップの支援ができるような体制にもっていきたくと考えている。

〈京都府立久美浜高等学校〉

- 久美浜高等学校は移行期にあり、現3年次生は総合学科の生徒であり、3名の生徒がいる。
- ・昨年度開校した丹後緑風高等学校では、“久美浜学舎・みらいクリエイト科”の2年次に介護職員初任者研修の修了を目指す選択科目群を置いている。現2年次生は1名が選択しており、現1年次生は現在のところ10名程度が選択を希望している。
- ・“網野学舎・普通科”では3年次に「福祉入門」という選択科目を置き、来年度から“久美浜学舎”の福祉科教員が遠隔教育システムを活用しながら教えることとしている。
- 「福祉科」の教員からは次のような意見を聞いている。
- ・高校で「福祉科」を選択する動機としては、小中学校での高齢者施設での体験学習を挙げる生徒が多い。そういうことからコロナ禍での機会喪失は打撃であると考えている。ある中学校から「福祉学習」の協力依頼を受けているが、オンラインを活用して本校の生徒が協力する予定。
- ・地元で地域の福祉を支える人材を確保していくには、“地元で安定して働ける職場”として職業選択のひとつとして印象付けような、福祉職場の魅力発信ができたと思う。
- ・今は「3Kではなく（・・・）だ」というような、否定表現をキャッチフレーズに使わない方が良いと思う。というのも、今の小中高生は、子どもの頃からデイサービスの送迎車がまちを走り、近所を出入りする送迎の職員さんや優しいヘルパーさんを身近に見て育っているため、介護の仕事も“一般的な職業のひとつ”という認識をもっている。否定表現を用いたキャッチフレーズは、逆にマイナスのイメージを与えるきっかけになってしまうと思う。

〈同志社大学 野村教授〉

- 地域共生社会の実現に向けては、重層的な支援体制をいかに各市町村でいろいろな人が繋がり合っつつっていくのが重要であり、福祉の支援は専門職だけのものではなく、「参加支援」がひとつのキーワードとなる。
- ・そのため、今とりわけ「福祉教育」が見直され、今後ますます重要になってくるといわれている。例えば、「福祉教育の手法」も、これまで行われてきた、体験学習（車いす体験・ブラインドウォーク）に加えて、“学生らが「いかに社会に貢献していくか」を自ら考え・実践しながら、授業内容に連結させることで学習効果を高める「サービスマーケティング」や、“地域の様々な事象を「地域福祉」の観点からみる”といった手法も開発されてきている。
- ・「参加支援」としては、支援の対象となる当事者も、そうでない人も手を取り合っつつやっっていく「サポーター」という考え方があり、既にその状況を経験した当事者が、“地域のほっとけない”にいち早く気づいて、課題解決の土俵にあげていく仕組みと言えると思う。
- 「福祉教育」の観点から、本学の状況の共有や、皆さま方の取組に触れさせていただく。
- ・本学でも、社会福祉学科の学生には、社会福祉士資格を取得するかどうかに関わらず、全員1週間（60時間）の現場実習に出すことになり、100名近い1回生の現場実習を年明け春から行えるよう準備を進めているところ。
- ・府立久美浜高等学校から、「福祉」を全面に打ち出した取組の共有がありましたが、「福祉教育」は高校よりも以前の小中学校・幼稚園・生まれた時から始まっているものであり、その「福祉教育」が今後ますます重要となることを考えると、今後の「福祉教育」は私たち全員に課せられている役割といえるのではないかと。
- ・宮津総合実習センターで様々な工夫されている、“福祉現場のリアルを伝えるリモート見学ツアー”等のオンラインでの受入プログラムは、コロナ禍において、府北部地域に來られない学生に向けて開発されたものかもしれないが、その仕組みは府北部地域の地元の方への福祉教育にも活用でき、この会議の目的でもある、地元で福祉人材を育てる仕組みにも活用できるのではないかと。
- ・また、今後、日本の福祉は、外国籍の人たちから支えていただくことになってくるとしたら、異文化への感度を高めていく気づきの教育も「福祉教育」の中に盛り込んでやっっていく必要があるのではないかと今日改めて思った。

○「参加支援」の観点から、皆さま方の取組に触れさせていただく。

- ・会議中に共有のあった、地元の潜在的な働き手（高齢者や主婦層など）を介護・福祉事業所における介護職員等をサポートする職種として活躍いただくための取組は、近々、自らが支援を受ける側になりうる人が、元気なうちに支援をしたいという気持ちを広げる活動ともいえる。
- ・北部福祉フィールドワークの仕組みも、“地域の福祉（地域のほっとけない）”に気づける感度を主体性に育ませるきっかけになるのではないかと考える。福祉の枠組みだけでなく、環境破壊や経済との繋がりも視野にいれながら、いろいろな“サポーター”により支えられている持続可能な“地域福祉”を考えていくことのヒントが、府北部地域の取組には、つまっているのではないかと。

〈京都府〉

- ・新型コロナウイルスの感染拡大など、社会情勢は大きく変化していて、福祉人材の確保の観点でも、必要な取組などを考えていかなければなりません。今後も引き続き、協力しながら進めていきたい。

以上。